

# おはよう

2025-4-18

野口幹夫

朝の茅ヶ崎海岸でのラジオ体操の会場で、韓国語で「おはよう」と声をかけてくる人がいた。同じグループで毎朝のことなので、それがきっかけで、「おはよう」の世界語さがしがはじまった。英語の Good Morning ドイツ語の Guten Morugen は、すぐ出るが他の国の言葉は調べなければならなかった。その結果を西から東へと並べる。

ポルトガル語 ボン ディア Bom dia

スペイン語 ブエノス ディアス Buenos Dias

英語 グッド モーニング GoodMorning

フランス語 ボン ジュール

イタリア語 ボン ジュルノ

ロシア語 ドブロイエ ウトロ

中国語 ザオシャン ハオ

韓国語 ホチュアン アチム

日本語 おはよう

その日の気分でいえるだけ言葉を掛け合って楽しむ。

ここでふと気がついたことがある。日本語以外は全部「グッド モーニング」つまり「良い朝で

すね」といっているのだ。ラテン語を母語とする欧米語が同じ意味を語っているのは、当然として、ラテン語とは縁のない中国語と韓国語迄が同じように「良い朝ですね」といっているのだ。

そして日本語だけが「よい朝ですね」とは言っていないのだ。

「おはよう」の挨拶はどんな意味なのか。

『日本文化いろは事典』によれば、「おはよう」は「お早くから、ご苦労様でございます」などの略で、朝から働く人に向かって言うねぎらいの言葉だったとか。同様に、「こんにちは」は「今日は、ご機嫌いかがですか」などの略で、お昼に初めて出会った人の体調や心境を気遣う言葉だといっている。

八丈島の古老たちは縄文語を話していたといわれている、そこで語られる朝の挨拶は「おはよう」ではなく「やすみやろわかーい」（よくお休みでしたか）であった。「おはよう」であっても「やすみやろわかーい」であっても、かける気持ちは同じで、「出会った人を気遣う言葉」をまず発したのだ。

この縄文語の挨拶は、朝にであった仲間への気遣いの言葉であるならば、いくらでも変化するわけで、長い時を経て現代日本語の「おはよう」に定着したのだ。

そしてそれは世界の言葉とは、発想法からして独自のものであって、関係を重んじる言葉だったのだ。縄文語が世界に類例のない言葉であることに、縄文人の創意と知恵と文化に敬意を払いたい。それを「おはよう」の挨拶のたびに思いをいたしたい。